事例No.	2431
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	一般社団法人　南島原ひまわり観光協会

事例区分	地域活性化

タグ	・観光 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	地域振興

事例内容・タイトル

～地域が光り輝く観光地を目指して～

出典

平成27年度優良事例表彰一覧

総務大臣賞

長崎県南島原市

一般社団法人 南島原ひまわり観光協会

～地域が光り輝く観光地を目指して～

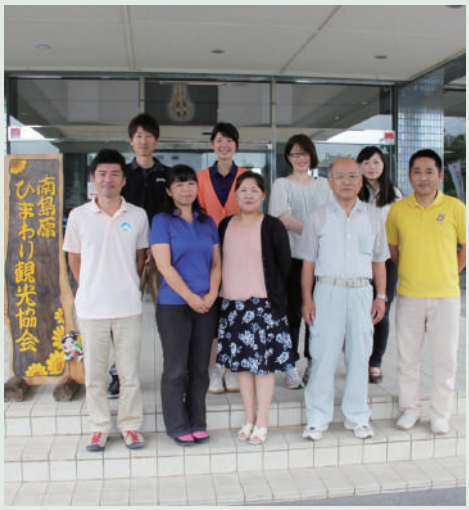


修学旅行の子供たちは、畑で実際に野菜がどのように作られているかを知らない子もいるため、自分の手で収穫することにより、高い達成感を生んでいる。

事例の概要

南島原市は、長い歴史の中で人々の生活によって営まれてきた、古式ゆかしい風習や伝統文化が今も大切に受け継がれているなど、豊富な地域資源を有しており、この地域資源を生かすべく、一般社団法人南島原ひまわり観光協会では体験型観光を推進している。

地域住民と連携した農林漁業体験民泊事業は、平成 21 年度に受け入れ家庭 6 軒でスタートしたが、現在では 150 軒を超え、国内観光客のみではなく、台湾を中心とした海外の観光客を受け入れるなど、交流の幅を広げている。また、この体験型観光は、観光の振興だけではなく、雇用の促進や人的交流の拡大、人口流出の抑制に加え、宿泊客の受け入れを行うことにより、住民自身がその土地での生活や地域のすばらしさを再確認することにもつながるなど、地域づくりの要となっている。



一般社団法人 南島原ひまわり観光協会のみなさん

評価のポイント

平成 17 年度に島原半島南部の８町が合併して誕生した南島原市では、合併前に一部の町にのみ設置されていた観光協会を、合併後、あらためて設置し、体験型観光の推進に取り組んでいる。

観光協会としてグリーンツーリズムを推進するため、平成 20 年度から研修講座や農林漁業体験民泊の説明会を開催し、個別に民泊の実践者の勧誘を行った結果、平成 21 年度に６戸が簡易宿所営業許可を取得した。現在では、「子ども農山漁村交流プロジェクト」の受け入れ地域としても認定を受けており、受け入れ農漁家は、関係者の努力によって 150 戸以上にまで増加している。

修学旅行生の受け入れについては、平成 23 年度の３校に始まり、平成 26 年度には 42 校を受け入れるまでに拡大し、平成 27 年度においては、51 校の受け入れが予定されている。また、平成 24 年度からは台湾をはじめ、韓国やマレーシアなど、海外からも民泊を受け入れている。

この民泊事業については、市も職員を観光協会に出向させたり、県・市の雇用創出関連事業等を活用して職員を３名配置するなどして、一体的に業務を育ててきた。更に市では、体験民宿施設整備補助事業として、住宅の改修補助も行っており、その実績は 100戸に達している。

本事例においては、都市から離れた半島で、農業と漁業にいそしんできた人々の持つホスピタリティが、市と観光協会が一体となる原動力となっているとともに、旧８町がゼロから民泊事業の取組をスタートさせ、５年ほどの間にここまで実績を上げている点が大いに評価される。



修学旅行では、海がない地域からも多くの参加がある。漁業体験は、生きた魚を実際に釣って手に取り、それを自分で調理する貴重な体験となっている。



わずか１泊の宿泊でも、見ず知らずの家庭の家族の一員となった貴重な時間は、非常に充実した時間となり、最後はお互いに涙のお別れとなる。



国内の参加者だけではなく、海外の方にも多く利用していただいており、日本の田舎暮らしを体験することで、日本に親戚ができたような感覚が生まれている。

DATA

長崎県南島原市（みなみしまばらし）

団体名●一般社団法人　南島原ひまわり観光協会
所在地●〒859-2412　長崎県南島原市南有馬町乙1395番地(有馬キリシタン遺産記念館2F)
連絡先●TEL:0957-65-6333　FAX:0957-65-6336
E-mail:kankou@himawarinet.ne.jp　URL:http://himawari-kankou.jp/

【交通のご案内】
自動車●長崎自動車道諫早ＩＣより80分
鉄　道●JR博多駅より諫早駅まで90分(諫早駅にて島原鉄道乗換)
島鉄諫早駅より島原駅まで70分
島原駅より南有馬庁舎前まで島鉄バスで60分　降車後徒歩10分
飛行機●長崎空港から車で約120分



▶国勢調査人口（単位：人）

昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
70,549	66,556	57,045	53,884	50,353

▶人口増減率（単位：%）

H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
-28.6	-24.3	-11.7	-6.6

▶高齢者・若年者比率（H22 年）（単位：%）

高齢者比率(65歳以上)	若年者比率(15歳以上30歳未満)
32.2	12.6